

平成28年度第2回岡山県環境審議会廃棄物対策部会議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：平成28年10月13日（木）10：00～12：00
- 2 場 所：ピュアリティまきび 2階「サファイア」
- 3 出席者：
 - 委員（五十音順、敬称略）
伊東 秀之、岡本 輝代志、野上 祐作、藤原 園子／4名（欠席3名）
 - 事務局
環境文化部次長、循環型社会推進課長、各班長、事務局職員／6名

議 題	(1) 第4次岡山県廃棄物処理計画の策定について (2) その他 次回の廃棄物対策部会の開催について
会議資料	別添資料のとおり
意見1 循環型社会 推進課長	<p>【議題1】 事務局から、資料「第4次岡山県廃棄物処理計画（骨子案）」p1～p6により説明</p> <p>p2の災害廃棄物処理について、大規模な自然災害により発生した廃棄物を対象としているようだが、大規模な火災が発生した際の廃棄物処理も、この中に含めるべきではないか。昨日、埼玉県で発生した地下電線の火災のような場合は、ダイオキシンの発生も懸念される。近年ダイオキシン問題が、話題には上らなくなったが、一般県民は気にしているのではないか。過去には岡山市内で、回収した廃電線を野焼きする事案が発生しており、ダイオキシン類による環境汚染が懸念された。その後行為者による撤去改善は進んでいないようだが、ダイオキシンについて計画で触れてほしい。</p> <p>次に、ごみの増加の原因についてだが、ごみ質は同じような傾向なのか、あるいは変わっているのか。具体的な増加原因が分かれば教えてほしい。</p> <p>災害廃棄物の処理は、東日本大震災時は計画も無いまま進めていったわけだが、他の地域と連携した広域処理の枠組が必要だと再認識させられており、今後いつ、どんな災害が発生するか分からないので、</p>

	<p>しっかり準備してまいりたい。</p> <p>ダイオキシン類については、発生しないような処理をしっかり進めていく必要があると認識しており、p 6「ウ 適正処理の推進」の「ダイオキシン類排出の削減」として位置づけ、取組みを進めていくこととしている。当然産業廃棄物処理でも同様に対応することとしている。</p> <p>御指摘の廃棄物の屋外焼却行為については、各現場でその都度、厳正に対応しているところである。</p> <p>次に、一般廃棄物の増加原因についてであるが、様々なごみがまとめて「可燃ごみ」などで出てくるため、詳細なごみ質の把握や、増加原因把握は難しい。</p> <p>意見 2 焼却炉の改修などにより、普通に燃やす分には、ダイオキシン類は発生しなくなったが、災害廃棄物など突発的な問題が発生した場合はどうするか。</p> <p>循環型社会推進課長 様々な種類の廃棄物が一緒に出てくるのが災害廃棄物の特徴で、これらを持ち込む段階で、できる限り分別し、処理していく必要がある。また、取扱に注意しなければならないものもあるので、今後、より詳しいマニュアルの整備などを予定している。</p> <p>意見 3 海水をかぶった瓦礫を燃やすと塩分を含み、ダイオキシン類が発生しやすくなるのではないかとされた時期もあったが、研究の結果そういうことはないようだ。そのような情報もしっかり活かしてほしい。(要望)</p> <p>意見 4 ①災害廃棄物の処理に当たっては、作業員がアスベストを吸い込んでしまう危険性もある。どう処理をして、どう対策するのかを盛り込んでどうか。 ② p 5の「家庭系ごみ」と p 3の「生活系ごみ」は同じものか。 ③ p 6の食品ロスについて、県は主に普及啓発を考えているのか。どこでどのくらいの食品ロスが発生しているか調査はできないか。</p> <p>一般廃棄物班長 ①アスベストは東日本大震災でも問題になったことから、岡山県災害廃棄物処理計画でも有害廃棄物の一つとして、留意点や、処理方法についてお示ししている。また、今年度、より詳細なマニュアルを策定</p>
--	---

	<p>予定であり、その中でアスベストの取扱いについても、より具体的に記載したい。</p> <p>②家庭系ごみと生活系ごみの違いであるが、家庭系ごみは生活系ごみのうち、ペットボトルや空き缶など資源性のあるごみを除いたものと定義されている。</p>
<p>資源循環推進 班長</p>	<p>③食品ロスについて、既に取り組を進めている都道府県もあるが、県としてできることは、まずは事業者や消費者向けの普及啓発と考えている。家庭向け、事業者向けにそれぞれ、どう食べ残しを減らしていくかなど、食品ロス対策に対して協力を呼びかけてまいりたい。</p>
<p>循環型社会 推進課長</p>	<p>岡山市では食品ロス削減をPRするような事業として、食品ロス削減レシピを募集したり、様々な団体、会議の場に出て行って取組を説明したりしている。一般廃棄物対策は原則的には市町村が行うことであるため、県としては主体である市町村の後押しをするような事業を通して、県民全体に浸透するような啓発を進めてまいりたい。</p>
<p>意見 5</p>	<p>どこでどんな食品ロスが生じているかの調査はやはり難しいか。</p>
<p>循環型社会 推進課長</p>	<p>家庭からは可燃ごみとしてひとくくりで出てくるので、詳細に調査することは難しいが、ごみ質の調査をしている市町村が県内でいくつかあったと思う。そうしたサンプル調査的なものを、市町村に対して、やってみないかと働きかけることはできるかもしれない。</p>
<p>意見 6</p>	<p>細かい種類が分かれば、対策も考えやすくなると思うので実施すべきだ。</p>
<p>循環型社会 推進課長</p>	<p>実態を把握するために、サンプリング調査はひとつの有効なやり方だと考えている。</p>
<p>意見 7</p>	<p>p 4のリサイクル率について、岡山県の全国における順位はどれくらいか。また、その要因は何か。</p>
<p>一般廃棄物 班長</p>	<p>リサイクル率は平成26年度で岡山県が全国第3位である。その要因としては、倉敷市にある水島エコワークスというガス化溶融施設があり、廃棄物を加熱して発生したガスを燃料として近接するコンビナ</p>

	<p>ートで利用しており、その実績がリサイクル率全体を引き上げている要因だと考えている。</p>
<p>意見 8</p>	<p>倉敷市がそうした理由により、リサイクル率を高めているのであれば、他の地域にはなかなか参考にならないと思うが、まだ全国では上があるし、世界の都市の取組みも参考にしながら、更に上を目指してほしい。(要望)</p> <p>ごみの分別についてであるが、可燃ごみでも市町村によってやり方がまちまちである。細かく分別をすれば、その分リサイクルに回しやすいのか。また、そうであるなら、県全体で分別方法を統一してはどうか。</p>
<p>一般廃棄物 班長</p>	<p>各市町村の分別ルールとリサイクル率についての相関関係は承知していないので、今後研究したい。</p>
<p>意見 9</p>	<p>p 6 の水銀含有廃棄物の適正処理であるが、どんな物に水銀が含まれているのか、一般の人には知られていないと思うので、県でも積極的に情報を発信してほしい。(要望)</p> <p>食品ロスについて、どこでどのくらい発生しているかについてであるが、食品ロス率というのが算出されている資料を見たことがある。農水省の資料かもしれない。最も食品ロス率が高いのは宿泊施設で、特に結婚式などの宴会部門が高いとのことである。こうしたデータを利用するなど調査方法はあると思う。</p>
<p>循環型社会 推進課長</p>	<p>食品ロスの調査は、おそらく農水省によるサンプリング調査だと思う。廃棄物がどこから出るかだけでなく、リサイクル手法についても調査していて、製造・販売課程でのいわゆる「3分の1ルール」によって排出されるようなものは、余計な物が混ざらない分リサイクル率も高いが、消費者に近い川下部分では、様々なものが混ざってしまうため、リサイクル率も低くなる。</p>
<p>意見 10</p>	<p>先般、WVS (world values survey)、世界価値観調査の調査結果が発表され、それによると、日本の環境意識というのは、最下位に近い。経済優先で環境意識が低くなっている。廃棄物の排出量を減らすのは大前提であるが、p 6 の「廃棄物情報の共有化と相互理解」については、拡充し、岡山県が再び環境先進県となってほしい。(要望)</p>

<p>循環型社会 推進課長</p>	<p>【議題 1】 事務局から、資料「第 4 次岡山県廃棄物処理計画（骨子案）」 p 7～ p 9 により説明</p>
<p>意見 1 1</p>	<p>産業廃棄物のリサイクル率も、目標を上回ったとのことであるが、 達成要因は何か。</p>
<p>循環型社会 推進課長</p>	<p>企業のリサイクルの取組を促していくということになるため、県で は、どのようにすれば排出量を削減できるのかを記したガイドライン を廃棄物の種類ごとに作成し、お示ししているほか、多量排出者の削 減への取組みをホームページに掲載し、情報提供を図るなどを行った。</p>
<p>意見 1 2</p>	<p>p 9 の岡山エコタウンプランの推進についてだが、これは水島に関 することか。</p>
<p>資源循環推進 班長</p>	<p>国の制度で、平成 1 6 年度事業によるものである。水島エコワーク スの中核的な事業として、リサイクル事業を展開している。また、こ うした施設では、学校からの見学受け入れなども行っている。</p>
<p>意見 1 3</p>	<p>先ほど、倉敷市はガス化溶融炉があるから、リサイクル率がよいと のことであったが、ガス化溶融炉は倉敷市ではあと 1 0 年くらいしか 使用せず、新しい処理施設を作るという話がある。1 0 年後に、リサ イクル率が急落しないよう、分別を細かくすることとリサイクル率と の相関関係、他の市町村の取組の調査など、先を見すえた準備が必要 と感じている。（意見）</p> <p>環境省の事業で、津山クリーンセンターを E S D（Education for Sustainable Development）の拠点にするという話があり、自分も見 学に行ったが、見学ルートも非常に良くできていた。他の施設でも同 様の取組みを展開し、環境教育に力を入れてほしい。</p>
<p>循環型社会 推進課長</p>	<p>環境教育については、広い分野が対象で、それぞれ N P O も多くの 分野で取り組んでいる。縦割りにならないよう取り組んでまいりた い。</p>

<p>意見 1 4</p>	<p>①産業廃棄物で問題になるのが、建築廃材である。これは分別が徹底されていればリサイクルできるが、混ざってしまうと分けるのが大変で、埋立処分するしかなくなる。</p> <p>②p 7の最終処分量の「燃えがら」、「汚泥」は、市町村から排出されたものも含んでいるか。汚泥は排水処理によって発生するものが相当ある。一部は再利用されているが、需要と供給があるため限界がある。</p> <p>③「ばいじん」とはどういうものか。</p>
<p>産業廃棄物 班長</p>	<p>①建築廃材は分別するとリサイクルしやすいが、最後まで残った混合物は、ほとんどの場合が最終処分場で埋め立てるしかない。リサイクルを進めるに当たって重要なことは、如何に分別を徹底できるかに尽きる。最後は手作業の人海戦術となりコストがかかる。</p> <p>また、産業廃棄物のリサイクルを進める上での課題としては、適正処理の確保が第一である。中にはリサイクルと称して処理をすることなく、再生資材と言って販売する悪質業者もある。廃棄物該当性の判断も難しい。リサイクルを進めて、最終処分される廃棄物をできるだけ減らす努力を今後も続けるが、一方で、これまで最終処分されていた物が、リサイクルされ、資材として使用されたとき、生活環境上の支障が生じないかは慎重に検討する必要がある。</p> <p>②市町村が一般廃棄物を焼却処理し、排出された燃えがらは一般廃棄物としての扱いとなり、市町村の一般廃棄物最終処分場で処分される。そのため、この産業廃棄物の「もえがら」には市町村のごみ処理施設由来のものは含まれていない。</p> <p>一方で、下水処理場の水処理汚泥は、下水道事業に伴って排出されるものであるので、産業廃棄物として市町村が排出事業者となって出てくる。この水処理汚泥は脱水されて、最終処分又は堆肥化处理や燃料化されることも多い。</p> <p>③ばいじんは、廃棄物焼却施設やばい煙発生施設で物を燃焼すると、燃えがらが残るが、燃焼ガスの中に様々な夾雑物があり、これが一般環境大気中に出て行くわけだが、その際にバグフィルターという目の細かいフィルターでとれるようなほこり、もえがらの一部がばいじんである。ばいじんは最終処分されることもあるが、セメントなどの原料として使用されることも多い。</p>
<p>意見 1 5</p>	<p>産業廃棄物のリサイクル率は全国何位か。</p>

産業廃棄物 班長	産業廃棄物のリサイクル率は各県集計のため不明である。
意見 16	<p>エコ製品は工事用の資材が多いが、もっと一般県民にとって身近なものが増えたらよいと思う。</p> <p>環境関連の施設の視察も、環境に関する意識啓発のため、充実することが望ましい。(意見)</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>